

乳幼児期に多く見られる伝染病

保育所における感染症対策ガイドライン
(厚生労働省)

病名	感染経路	潜伏期間	症状	感染しやすい期間	登園(所)出来ない期間
インフルエンザ	飛沫	1～7日	高熱、悪寒、頭痛、筋肉痛、倦怠感、鼻水、咳、下痢等	発症3日前から感染後10日	発症した翌日から5日経過し、更に解熱した翌日から3日を経過するまで
麻疹(はしか)	飛沫	10～12日	発熱、咳、くしゃみ、鼻水、発疹、結膜炎、眼脂、粘膜疹、下痢	発疹出現の前後4～5日	解熱した翌日から3日を経過するまで
百日咳	飛沫	6～14日	風邪様の咳から長期に続く咳や呼吸困難	感染後1ヶ月間	特有の咳が消滅するまで、もしくは5日間の抗菌性物質剤による治療が終了するまで
風疹(三日はしか)	飛沫	14～21日	軽熱、3～4日間の発疹、かゆみ、リンパ節膨張	発疹出現7日前から出現後14日まで	発疹が消えるまで
水痘(水疱瘡)	飛沫接触	14～21日	軽熱、かゆみ、水をもった発疹が全身に現れる	水泡出現2日～全ての発疹が痂皮となるまで	全ての発疹がかさぶたになるまで
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	飛沫	16～18日	耳、顎の下が腫れて痛む初期に腹痛、嘔吐、発熱	耳下腺が腫れる前の7日から、腫張後9日まで	耳下腺の腫張が発現した翌日から5日を経過し、更に全身状態が良好になるまで
咽頭結膜炎(プール熱)	飛沫経口	3～6日	のどの痛み、眼の充血、発熱、下痢	解熱後1～2週間	主要症状が消退した翌日から2日を経過するまで
流行性角結膜炎	接触	5～7日	眼脂、充血、流涙、軽熱	発病後2週間	医師より伝染の恐れがないとみとめられるまで
結核	飛沫	半年～2年	咳、血痰、食欲低下	喀痰に排菌がある期間	感染の恐れがなくなってから
腸管出血性大腸菌感染症(O157など)	経口	2～5日	腹痛、下痢、水様便、血便	便に排菌がある期間	感染の恐れがなくなってから
溶連菌感染症	飛沫接触	2～5日	高熱、咽頭熱、発疹 舌はイチゴのようにブツブツがみられる	症状のある期間	主治医の判断による
ヘルパンギーナ	飛沫	2～4日	高熱、咽頭熱、発疹、時に頭痛、腹痛、口腔・咽頭に痛みのある小水泡、潰瘍	発症から3日間	
手足口病	飛沫接触	3～6日	手足口に小さな水泡が生じ、風邪様な症状	発症から1週間	いつもの食事が取れるようになったら
伝染性紅斑(りんご病)	飛沫接触	7～8日	両頬の紅斑、四肢の紅斑性湿疹	10～20日	休園(所)の必要はなし
突発性発疹	飛沫	7～14日	突然、高熱が3～4日続き、解熱と同時に小さな発疹	発症時から発疹のある期間	解熱した翌日から
感染性胃腸炎(ノロ、ロタ、アデノウイルス)	飛沫	2～3日	突然の嘔吐の後に激しい下痢が続く	症状のある期間	嘔吐、下痢症状が治まり、食事が取れる状態
RSウイルス感染症	飛沫接触	4～5日	高熱、咳、喉の痛み	呼吸器症状がある間	呼吸器症状が治まってから
マイコプラズマ肺炎	飛沫接触	2～3週間	激しい咳が長期に続く、発熱、喉の痛み、頭痛、胸痛	抗菌剤投与より数日	激しい咳が止まってから
帯状疱疹(ヘルペス)	水痘後の体力低下	2～3週間	神経の痛み、水疱、潰瘍	水疱のある間	全ての発疹がかさぶたになるまで
とびひ	接触	2～5日	薄皮水疱又は黄色かさぶた発疹、かゆみ	発疹が出ている間	主治医の判断による
水いぼ	接触	14～50日	かゆみ、痛みなし、1～3ミリの光沢イボ		
アタマジラミ	接触	即日	かゆみ	シラミが付着してる間	休園(所)の必要はなし

※医師の診断を確認して保護者の方が、保育園(所)にお知らせください。

※登園(所)できない期間は、集団生活での蔓延防止を目的として作られています。

※他に感染させるおそれなくなり、症状が治まっても、お子様の健康状態を考慮し、集団生活が可能になるまで回復しているか主治医と相談のうえ、登園(所)の判断をお願いします。